

に手に取れるようにしました。
二階には、カフェのような雰囲気
のギャラリーを設置。(写真⑥) 特集本や
展示もできます。壁一面に「壁付け書架
用の棚柱レール」を埋め込み、書架にす
ることも可能です。

書架は車いすや高齢者の方でも安心し
て手が届く高さにし、自由に表紙見せに
切り替えができます。まるで、本屋の
ように表紙が迎えてくれ、わく
わくする場所です。

▼写真⑥



▼写真⑦



▼写真⑧



職員総動員で
全資料にICタ
グを貼り、自動
貸出機も設置。
利用者のプライ
バシーを守り、
ストレスを感じ
ることなく本を
借りてもらえま
す。

入口から床に
は線路を描き、
絵本の森へ！途
中には、書架の
間に秘密のトン
ネル、(写真⑦)
かわいい動物と
紙芝居を乗せた
汽車型紙芝居架
が出現！(写真
⑧)

◀写真⑨



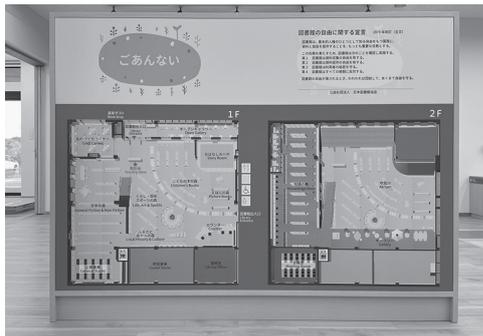
◀写真⑩



◀写真⑪



◀写真⑫



二十八種類、二四席の椅子(写真
⑨)を多様な場所に設置。他にも、鳥
獣戯画の壁、(写真⑩)ドラえもん「ど
こでもドア」、(写真⑪)赤い屋根のお話
の部屋など、わくわくがいっぱい！実
は、検討報告書の中で、「とにかく「わ
くわく」する図書館が欲しい！」との



あやテラスに
ついて



綾部市図書館
について

たら、心落ち着く、思わず笑顔になれる
図書館です。ぜひ、詳細はQRコードを
ご覧ください。

要望がでていました。
課題は静と動の切り
分けです。天井に雲
形の吸音板や木の形
の吸音パネルの設置、
吸音・拡散させる地
域産木材を不思議な
模様貼り、静読室
を設けることで対応
しました。
図書館部分は東と
北向きに位置し柔ら
かい日差しで過ごす
ことができます。天
井の照明に三五〇〇
Kの温白色の色照明
を採用し、温かい空
間の創出と、書架で
本を選ぶ時に影がで
きずストレスを感じ
ることがありません。
「図書館の自由宣
言」は、入口の本棚
の裏側に貼り、(写真
⑫)多くの方に見て
いただけるようにし
ました。
一歩足を踏み入れ

二. 四代目「あおぞら号・バーバパパ」
特徴
四代目の「あおぞら号・バーバパパ」
は、二トントラックを改装した内架式
で、新たに車椅子やベビーカーの方も利
用できるように乗降用リフトを付けまし
た。地球環境に優しいハイブリッド車
で、室内灯は全てLEDとし、階段上に

一. 移動図書館の歴史
精華町立図書館の歴史は、昭和四十八
年の精華町文庫の開設から始まりま
す。昭和四十九年に移動図書(ライトバン)
を開始、昭和五十年に初代あおぞら号
(六〇〇冊積載)が運行を開始するなど、
移動図書館は精華町立図書館設置(昭和
五十三年)以前から続く、不可欠のサー
ビスとして続いてきました。
昭和六十二年に二代目あおぞら号
(一〇〇〇冊積載、平成四年に三代目あ
おぞら号・バーバパパ(二五〇〇冊積載)
と更新。三代目は四トンバス改装の内架
式で、著者の許諾を得て車体図案に初め
て「バーバパパ」を描き、三十年に渡っ
て親しまれてきました。
そして、令和四年三月、一般財団法人
自治総合センターのコミュニティ助成事
業も利用して、現在の四代目の移動図書
館に更新しました。

精華町立図書館における
移動図書館の運行
精華町立図書館 河西 聖子



© 2024 Alice Taylor & Thomas Taylor ALL RIGHTS RESERVED

雨除けテントを設置しています。また、車体には、親しみやすいバーバパパの図案を大きく描き、高齢者から親子連れまで様々な方に利用してもらいやすいようにしました。

積載冊数は一〇〇冊と減少しましたが、車内にはブックトラックを積んで固定できる仕様としており、利用が多い地域には天候にはよりますがブックトラックを積んでいき、移動図書館の外に出して、より多くの冊数を見ていた、できるだけにしています。また、職員が利用者のリクエストや利用状況に応じて、毎日、本や雑誌を入れ替えて運行しています。

(二) 新たな取組

この機会に、巡回の場所や停車時間も見直し、町内の地域二十四箇所を効率的に巡回できるようにしました。現在、火曜日の午後毎日三箇所ずつ巡回しています。そして新たに、午前中に町立の保育所や高齢者施設も巡回するなど、移動図書館の機能を活かし、利用者の利便性の向上を図っています。

令和六年五月には、「えほんpicnic at けいはんな記念公園」をけいはんな記念公園と共催で行いました。移動図書館を町内にあるけいはんな記念公園芝生広場で停車させ、広場で絵本を読む環境を整備し読書推進を図るとともに、そのキャッチーな存在感は図書館の広報としても効果を発揮できたと感じています。これからも移動図書館を効率的に運行し、町内全域サービスのひとつとなればと思っています。

能登半島地震における七尾市への電子書籍サービス支援について

京都市教育委員会事務局
生涯学習部施設運営担当

橋本 隆文

令和六年一月一日に「令和六年能登半島地震」が発生し、関西広域連合で定められたカウンターパート方式により京都市は七尾市の支援を行うことが決まりました。そこで、京都市図書館として何ができるかを検討した結果、スマートフォンや

タブレット等で利用可能な本市の電子書籍サービスを株式会社図書館流通センター様の御協力の下、令和六年二月五日から利用できるように、複数の人が同時に読むことができる「児童書読み放題パック」約三四〇点を追加購入のうえ、利用可能な電子書籍として、トータル約四六〇〇点のコンテンツを提供しました。(令和六年二月時点)

七尾市民の方への広報が課題でしたが、七尾市教育委員会を通じて各学校へのチラシの配布、七尾市立図書館のホームページへの掲載により周知を図ることができました。

登録方法は、被災地の状況を配慮し、必要最小限の情報(氏名、カナ、住所、生年月日)を電子メールで申込していただき、京都市図書館で登録作業を行い、利用者IDとパスワードをメールで発行しました。

利用者からは、「地震後の忙しさやしんどさで読書から遠ざかっていたが、このサービスを知り、再び本を読もうという気持ちになれた。」「とてもありがたい。」「などの感謝の声もいただきました。

電子書籍サービスを利用登録された七尾市民の方は八十七名で約二〇〇冊の貸出しがありました。(令和六年六月末時点)

地震による被害を受けた状況下においても、インターネット環境があればいつでもどこでも読書ができる利点に加え、人的負担なく安定的・スピーディにコンテンツ提供・拡充を可能とする「電子書籍サービス」のアドバンテージがより有効に機能したのではないかと受け止めて

います。(現在、七尾市立図書館については全館が再開されており、七月三十一日をもって支援は終了しました。)

これからの時代、ますますDX化が進み、電子書籍が身近になっていく中で、読書バリアフリー推進も含めた重要な支援の視点になるのではないかと考えています。

京都市においても多くの皆様に利用いただいており、これからも電子書籍サービスの有用性を生かした図書館行政を推進してまいります。

図書館と本の修理ボランティア

宇治市中央図書館 有林 沙央

宇治市図書館では、いくつかのボランティア団体さんと図書館サークルさんが活動されています。図書館で読み聞かせを行ったり宇治市の歴史を学んだり、活動内容は様々です。中でも図書館運営に大きく関わってくださっているのが、「本の修理ボランティア」さんで、市内に三館ある図書館でたくさんの方に読まれ、ページが破れたり、外れたりしてしまった資料の修理を担当してくださっています。

「本の修理ボランティア」さんは二十六年程前から図書館で活動をされており、現在は十七人がボランティア登録されています。毎週金曜日、その週に出た修理本約百冊を修理してくださいます。

す。活動を見学させていただくと、皆さん和気あいあいとした雰囲気、楽しんで本を修理して下さっているのが伝わってきました。毎回の活動に参加するのは任意で、家庭の事情や体調に合わせて連絡なしに欠席できるところがこのボランティアが長く続いている秘訣だそうです。代表を務める藤井政博（ふじいまさひろ）さんは「館内でチラシを見たのがきっかけで、七年前から参加しています。もともと細かい作業が好きなので性に合っていて楽しいです。」と話してくださいました。

宇治市図書館では、毎年二月〜三月頃に「マナーキャンペーン」を開催しています。「マナーキャンペーン」では、図書館の本を丁寧に・きれいに読んでいただくよう利用者の皆さんにお声掛けするとともに、啓発のためにしおりをお渡ししています。こうした活動を通し、利用者の皆さんに気持ちよく図書館をお使いいただけるように啓発してはいますが、経年劣化等による汚損・破損の資料はどうしても出てしまいます。できるだけ



長く、たくさんの方に図書館の本を読んでいただくためにも、「本の修理ボランティア」さんには今後たくさんのお本を修理していただけたらと思っております。

『はるやすみおはなし会』
『聞きたい本総選挙』
 について

向日市立図書館 島田 暢子

当館で開催しました『はるやすみおはなし会』聞きたい本総選挙』についてご紹介します。

当館のおはなし会では、ここ数年テーマに沿って選書をしていました。しかし、今回はいつもと異なる試みとして、キャッチコピーを『聞きたい本総選挙』に決めました。これは利用者が自らおはなしを選ぶことで、おはなし会をより身近なものに感じてもらう、参加者が増加することを目的とするものです。

内容は、テーマごとに二冊を候補としてあげ、どちらを読んでもほしいか事前投票してもらい、それぞれ票の多い方を読みました。今回は、「ねこのおはなし」「むかしばなし」「はたらくおはなし」「紙芝居」の四テーマでした。

投票所は、ボードを設置したロビーとしました。ボード上に候補本の表紙コピー、簡単なあらすじを掲示し、下段にシールを貼る欄を作りました。投票所をロビーとすることで、普段おはなし会になじみがない利用者にも、おはなし会について認識していただけることができました。

投票方法は、テーマごとに一個の投票シールを配布して、「こっちのおはなしが聞きたい!」と思っただけで、投票所



でシールを貼ってもらいました。いたずら防止やより多くの人に投票してもらえるように、シール四個を一人分としたシートを作り、カウンター前に設置しました。

投票期間は二週間で締め切り、開催一週間前からは、投票が多かった方の本に「当選」と実際の選挙にあるようなりボンの印をつけて、読む本を事前に発表しました。また、おはなし会当日にも、テーマごとにどちらの本を読むかを発表しました。

投票が接戦になり読む本が一週間前まで決まらないものや、職員の予想と違うものもあり、非常に盛り上がりました。利用者投票方法を説明するのが大変でしたが、職員の声掛けによって利用者の投票、おはなし会の参加へとつながりました。今後もおはなし会の参加者増加につながる取組を工夫していきます。

令和六年度京図連協研修予定

北部 令和六年十二月四日(水) 午後
 テーマ「レファレンス」
 場所 宮津市福祉・教育総合プラザ
 講師 小林 昌樹 氏
 (元国立国会図書館職員)

中部 令和六年十二月(予定)
 テーマ 調整中
 場所 調整中
 講師 吉本 龍司 氏
 (株式会社カーリル)

南部 令和七年二月六日(木)
 十四時〜十六時
 テーマ「ヤングアダルト世代の
 利用率向上のための取組」
 場所 精華町立図書館
 講師 一階集會室

第三十三回京都図書館大会
 テーマ「地域資料の拠点たる図書館へ」
 日程 令和六年十一月十八日(月)
 場所 あやテラスホール・綾部市
 図書館

Ⅱ 会報はホームページに掲載Ⅱ
 京都府図書館等連絡協議会のホームページに過去の会報も掲載しています。御利用ください。